

閉塞性肺疾患におけるCATの咳嗽ドメインの有用性について

川本 珠貴¹⁾, 吉井 直子¹⁾, 呉家 由子¹⁾, 佐藤佳奈子¹⁾, 山田 一宏¹⁾,
長安 書博¹⁾, 小西 一央¹⁾, 宇治 正人¹⁾, 渡辺 徹也¹⁾, 栩野 吉弘^{1,2)},
浅井 一久¹⁾, 鴨井 博^{1,3)}, 金澤 博¹⁾, 平田 一人¹⁾

大阪市立大学大学院医学研究科 呼吸器内科学¹⁾, 同 総合医学教育学²⁾,
同 運動生体医学³⁾

【背景】The COPD Assessment Test (CAT)は8つのドメインからなるCOPD患者の健康状態を総合的に点数化出来る簡便な指標であり、その1つとして咳症状に関するドメインがある。一方、咳嗽は様々な呼吸器疾患の症状として頻度の高いものであるが³⁾、咳嗽の頻度、強度と疾患病態との関連は明らかではない。

【方法】閉塞性呼吸障害を示す当院通院中の外来患者計91例(COPD 17例, Asthma 58例, ACOS 16例)にCAT, 呼吸機能検査, 6分間歩行試験(6MWT), IOSを施行し, その各種パラメーターとCATの咳嗽ドメインとの相関を検討した。

【結果】COPD群とACOS群ではCATの咳嗽ドメインと呼吸機能検査, 6MWTには相関は認めなかったが³⁾, Asthma群では呼吸機能検査(%FVC : $r = -0.35$, $p = 0.008$, %FEV1.0 : $r = -0.35$, $p = 0.007$, FEV1.0% : $r = -0.31$, $p = 0.02$)と6MWTのminimum SpO₂ (minimum SpO₂ : $r = -0.27$, $p = 0.04$)に有意な負の相関, およびIOSのFres ($r = 0.42$, $p = 0.0001$)に有意な正の相関を認めた。

【結論】0～5の6段階に分けられたCATの咳嗽ドメインは簡便に使用することができ, Asthma患者の呼吸機能及び労作時低酸素の予測因子となる可能性が示唆された。

【キーワード】CAT, 咳嗽, COPD, asthma, ACOS